

秋田県立由利工業高等学校 中期ビジョン（5か年計画）

本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

1 学校の現状や課題

(1)平成31年度教育目標

本校は今年度、次の目標を掲げ、教育活動を行っている。

自律精神を基盤として一人ひとりの人格の形成をめざし、秋田県や日本のみならず国際社会に貢献し、工業界の発展に寄与する人間の育成に努める。

(2)現状

本校は昭和37年5月の開校以来、地域の企業や産業を支える工業技術者を輩出してきた。平成30年度の進路達成状況は、県内企業67人、県外企業31人、公務員2人、4年制大学8人（うち国公立1人）、短期大学と専門学校は、あわせて17人であった。県内企業への就職率の高さは、全県トップクラスを誇っている。

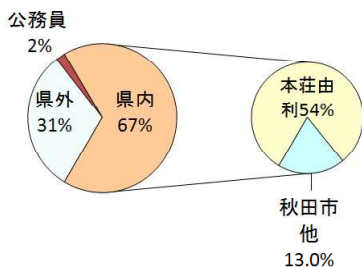
本校の教育活動の特色として、地域に根ざした教育活動を重点目標に据え、本校の教育財産を地域に還元するということが挙げられる。小学生を対象とし、各学科の実験実習を体験する「ふれあい体験」や地域の保育園との交流の一環として園児たちに手作りの“積み木”を寄贈する取組は高く評価されてきた。各種奉仕活動も連綿と引き継がれているが、その中でも電気科の第二種電気工事士取得生徒による「技術ボランティア」は工業教育の意義と成果を地域住民の方々に認識していただく良い機会になっている。

東日本大震災を契機とした防災意識の高まりの中において、地域防災の拠点として地域合同の防災訓練の推進に貢献するとともに、地域の減災をテーマとした4科合同の「ME S Aプロジェクト」は全国産業教育フェアにおいて高い評価を受けた。

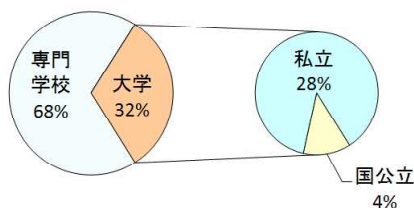
過去5年間の進路決定状況

			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
就職者	一般企業	県内	45	42	50	51	54
		本荘由利					
		上記以外	15	6	6	8	13
	公務	県外	33	35	48	33	31
		県内	0	2	0	0	0
小計		97	88	108	95	100	
進学者	大学	9	13	12	10	8	
	短期大学	0	2	1	3	0	
	専門学校	20	16	8	14	17	
	小計	29	31	21	27	25	
その他		1	1	1	0	0	
合計		127	120	130	122	125	

30年度 就職者内訳



30年度 進学者内訳



さらに、平成27年10月に発表された「あきた未来総合戦略」の重点プロジェクトの一つとして「航空機産業の振興と専門人材の育成」が打ち出され、「将来の航空機産業を担う人材の育成のため、大学、高専、高校等での特別講義の実施やインターンシップ等を行うほか、工業系高校等に専門的なカリキュラムを導入する」とあることを受け、航空機産業を担う専門人材育成のための授業を行っている。

(3) 課題

現状を踏まえ、次のことを課題としてとらえている。

- ①「産業、労働、雇用の環境変化」、「高卒就職市場の変化」、「家庭環境の変化」を考慮した教育活動の展開
- ②全県トップクラスである県内企業への就職率の高さの維持向上
- ③工業高校の特色を生かした地域貢献
- ④県の総合戦略の重点プロジェクトに対応する先進的なカリキュラムの推進

2 学校を取り巻く将来の状況への対応

第七次秋田県高等学校総合整備計画にあるように、ここ由利本荘・にかほ地域でも今後の中学校卒業生数の減少は避けられない。このような状況の中にあっても、質の高い教育活動を通して、地域のものづくり教育の拠点としてありつづけることが求められる。

また、ここ数年求人数が持ち直したとはいえ、多くの生徒が希望就職先としている地元の大手企業やその傘下の企業における求人数については将来的な見通しは不明瞭であるだけに、経済の動向に左右されない揺るぎない進路指導体制の構築が求められる。

一方で、大学進学に対する指導にも一層力を入れていかなければならない。本校において工業に関する知識や技術を習得した生徒たちが、大学への進学に優位に立てるようにするために、本校と大学の間での専門分野における連携をより一層進めていくことが求められる。

3 目指す方向性や学校像

- (1)ものづくりを通じた全人教育を推進し、校訓である「自律・創造・誠実」を具現化できる人材を育成する。
- (2)県内外の著名な企業への高い就職率を維持すると同時に、工業科の特徴を生かした大学進学率の向上、特に由利本荘地区に立地する秋田県立大学への進学者数を増やしていく。由利工業高校に入学すれば就職だけではなく進学面においても夢を叶えることができるという評価を得られるよう努める。
- (3)職員と生徒が一体となり、科学技術の粋を極めようとする本校の教育活動に関して、多くの地域の方々の理解を得るよう努めるとともに、本校の教育財産の地域への還元を更に推進する。

4 5年間で達成を目指す具体的目標

- (1)就職と進学（工学部系）の両方の進路選択が可能な工業高校を目指す。
 - ①就職試験での内定率100%及び県内就職率70%以上を目指す。
 - ②進学希望者の第1志望合格率100%を目指す。
- (2)地域貢献に資する人材を育成する。
 - ①地域貢献活動（技術ボランティアや保育園児との交流）を今後も継続する。
 - ②「ものづくり」を通しての小中学生との交流や、地域企業との連携を深める。
 - ③地域の防災拠点としての役割を果たす。
- (3)航空機産業に関わる人材を育成するための先進的なカリキュラムを推進する。

具体的な取組等

1 「由エスタンダード」の励行

- (1) 「生活版」…挨拶励行・時間の有効活用・自己管理
- (2) 「技能編」…一つ一つ確実に技術・技能を身に付けた確かな技能者の育成
- (3) 「資格編」…科の特性を踏まえた検定を受検による各種資格の取得

由エスタンダードの励行を本校の教育活動の大きな柱とし、社会に出るに当たって必要とされる基本的な生活習慣や礼法及び専門的な技術・資格を身に付けさせる。状況に応じた適切な態度や行動ができる理解力、判断力、表現力を身に付けさせ、当たり前前のことを当たり前前にしっかりとできる生徒を育成する。

2 就職試験での内定率100%及び県内就職率70%以上を目指す取組

- (1) インターンシップや会社見学、工業技術懇話会等、地域企業とのネットワークの構築を進め、連携を生かした進路指導を推進する。
- (2) 授業改善の取組とともに生徒の家庭学習の習慣化を図り、基礎学力を高める。
- (3) 部活動加入率をすべての学年において70%以上となるようにし、活動を充実・発展させ、その成績向上を推進していく。部活動を通して生徒の豊かな人間性を形成していくことは、有為な社会人形成に結びつくと考える。

3 進学希望者の第1志望合格率100%を目指す取組

- (1) 秋田県立大学及び秋田大学との連携を強化する。
 - ① 両大学におけるオープンキャンパス等へ参加する生徒を増やす。
 - ② 由利本荘地区における教育的資源を有効に活用する。
秋田県立大学の教育的資源のハードとソフトを有効に活用していく。大学見学、大学教員による出張講座、そして学生との技術交流等の行事を実施することにより、「ものづくり」に関して夢を抱くスペシャリストになることを希望している本校生徒の知的好奇心を刺激し、進学志望者数の増加を図る。
- (2) 進学希望者のための系統的・組織的な補習や講座を拡充するとともに、進路希望に応じた個人指導を充実する。
- (3) 中学生と中学校教員に、工学系大学への進学が可能であることを積極的に伝え、理解していただくよう努め、学習面と進路指導面における中高の連携を強化する。

4 工業教育の特色を生かした地域貢献

- (1) ふれあい体験学習等による、ものづくりを通じた小中学生やその保護者との交流を更に充実させる。
- (2) 現在実施している技術ボランティアの充実に努めるとともに、保育園児や地域との交流を更に深める。
- (3) 地域防災の拠点としての在り方の検討等、学校全体で取り組むMESAFCプロジェクトを更に充実させる。

5 航空機産業に関わる人材育成の推進

高い技術力をもつ企業や高等教育機関と連携し、高度な実習や関連企業におけるインターンシップ、技術者による特別講義等、幅広い内容を含むカリキュラムを構築し、航空機産業に貢献できる専門人材の育成に資する。